

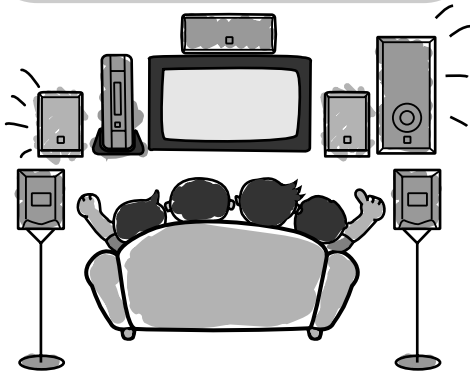
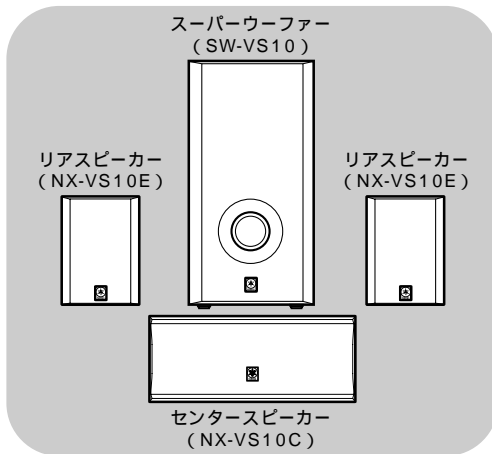


ナチュラルサウンドホームシアター
サウンドシステム VS-10専用

スーパーウーファー/センタースピーカー/
リアスピーカー

NX-SW10

取扱説明書



このたびは、スーパーウーファー/センタースピーカー/リアスピーカー NX-SW10をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。

NX-SW10の優れた性能を十分に発揮させるとともに、未永くご愛用いただくために、この取扱説明書をご使用の前に、必ずお読みくださいますようお願いいたします。

お読みになったあとは、保証書とともに大切に保管してください。

特長.....	2
安全上のご注意.....	3

スピーカーの置きかた.....	7
-----------------	---

接続のしかた.....	8
センタースピーカー/リアスピーカーとスーパーウーファーの接続.....	8
スーパーウーファーとホームシアターサウンドシステムをつなぐ.....	10
電源コードの接続.....	10

センタースピーカーの取り付けかた.....	11
リアスピーカーの取り付けかた.....	12

故障かなと思ったら.....	14
----------------	----

仕様.....	15
---------	----

ヤマハホットライン サービスネットワーク.....	裏表紙
------------------------------	-----


特長

ホームシアターサウンド

別売のヤマハホームシアターサウンドシステムVS-10に本機を接続することで、重低音の迫力とサラウンド感をお楽しみいただけます。

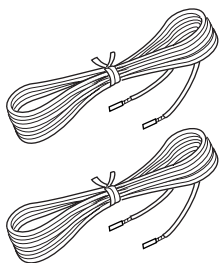
別売ヤマハホームシアターサウンドシステムVS-10による集中コントロール

スーパーウーファーのレベル調節、テストトーンによるスピーカーレベル調節などをホームシアターサウンドシステムで操作します。別売ヤマハホームシアターサウンドシステムVS-10の取扱説明書をご覧ください。

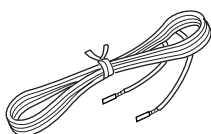
スーパーウーファーには豊かな重低音を再生する、アドバンストヤマハアクティブサーボテクノロジー  搭載

付属品がすべてそろっているか、確認してください。

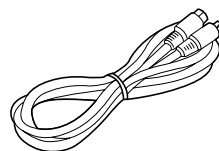
スピーカーコード
(リア用15m:2本)



スピーカーコード
(センター用4m:1本)

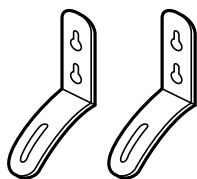


システム接続ケーブル
(3m:1本)

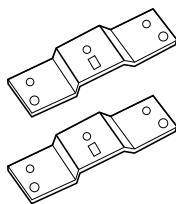


スピーカー取り付け部品

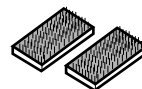
Aタイプ×2
(ウォールブラケット)



Bタイプ×2
(ブラケット)



固定テープ(2セット)



ネジ(2本)



蝶ネジ(2本)



安全上のご注意 (安全に正しくお使いいただくために)

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例



記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。



分解禁止

⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。



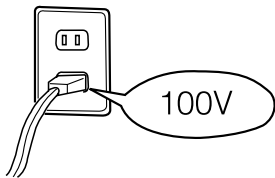
記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



警告

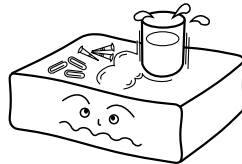
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- ⊘ 電源電圧交流100V以外の電圧で使用しない



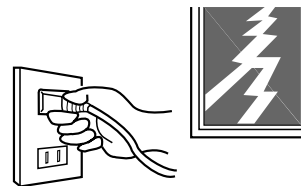
火災・感電の原因となります。本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。

- ⊘ 水や金属類を入れたり、ぬらさない



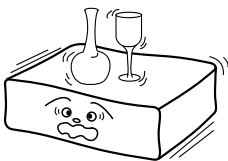
火災・感電の原因となります。本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。また、本機を水滴などが落ちる場所に設置しないでください。

- ⊘ 雷が鳴っているときは、アンテナ線や電源プラグに触れない



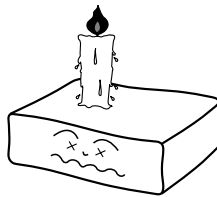
感電の原因となります。

- ⊘ 陶器やガラス類などを置かない



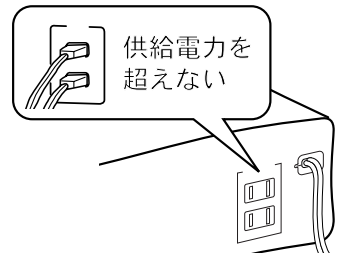
振動により落ちたり、倒れたり、割れたりするとケガをする恐れがあります。

- ⊘ 火のついたローソクなどを置かない



火災・感電の原因となったり、火傷をする恐れがあります。

- ⊘ 供給電力を超える消費電力の機器を、電源供給コンセントに接続しない



火災の原因となります。接続機器の消費電力の合計が本機背面に表示されている供給電力を超えないようにしてください。また、供給電力内であっても電源を入れたときに大電流の流れる機器（電熱器具、ヘアドライヤー、電子レンジなど）は接続しないでください。

安全上のご注意



警告

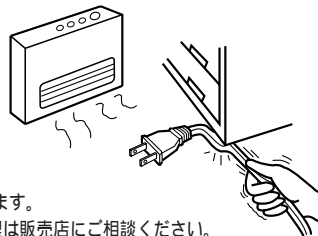
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- ❌ 分解・改造を絶対しない
(キャビネットをはずすことも含む)



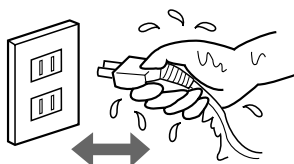
火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

- ❌ 電源コード・プラグを破損するようなことをしない
(傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる・ねじる、引っばる、束ねる、重いものをのせるなどしない)



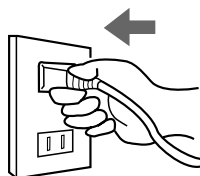
火災・感電の原因となります。
コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

- ❌ 濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない



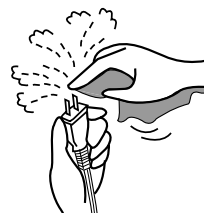
感電の原因となります。

- ⚠️ 電源プラグは根元まで確実に差し込む



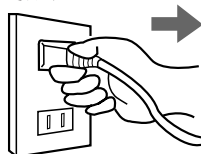
差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。
抜くときは必ずプラグを持ち、コードを引っばらないでください。
傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

- ⚠️ 電源プラグのほこりなどは定期的に取り除く



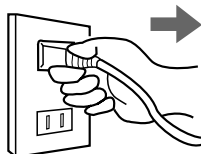
プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。
電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

- ⚠️ 機器の内部に水や異物が入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く



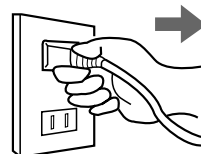
販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- ⚠️ 煙が出たり変なにおいや音がしたら、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜く



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

- ⚠️ 落したりして本機を損傷した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く

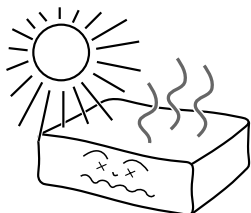


そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

⚠ 注意

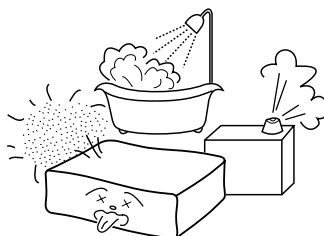
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

- ⊘ 直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に置かない



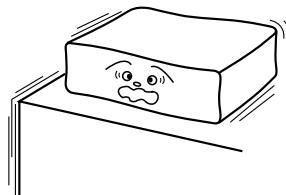
キャビネットや部品に悪い影響を与えたり、内部の温度が上昇し、火災の原因となることがあります。

- ⊘ 湿気やほこりの多い場所に置かない



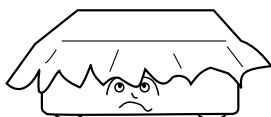
加湿器を使用する場合は、本機との間に十分なスペースをとり、加湿しすぎないようにしてください。本機内部に結露が生じると故障するだけでなく、火災・感電の原因となることがあります。

- ⊘ 振動のある場所、ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない



落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

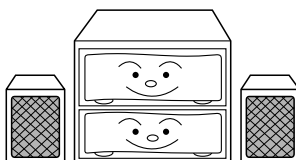
- ⊘ 通風孔をふさがない



通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがありますので、次の点に注意してください。

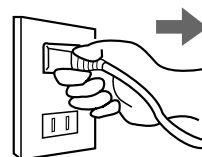
テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや、布団の上に置かないでください。本機を押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込まないでください。

- ⚠ 放熱をよくするために他の機器との間は少し離して置く



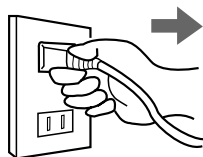
火災・故障の原因となることがあります。ラックなどに入れるときは、本機の天面から10cm以上、左右10cm、背面から10cm以上のすきまを開けてください。

- 🔌 各機器を接続する場合は電源プラグを抜き、説明に従って接続する



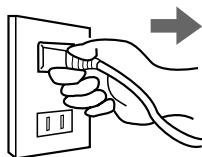
各々の機器の取扱説明書をよく読み、接続には指定のコードを使用してください。

- 🔌 移動するときは電源スイッチを切り、必ず電源プラグを抜き、外部の接続コードを外す



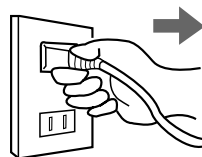
コードが傷つくと火災・感電の原因となることがあります。

- 🔌 お手入れの際は、安全のため電源プラグを抜く



感電の原因となることがあります。

- 🔌 長期間使わないときは、必ず電源プラグを抜く



火災の原因となることがあります。

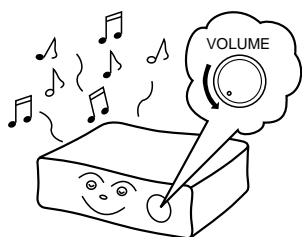
安全上のご注意



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

- ⚠ 電源を入れる前には音量を最小にする



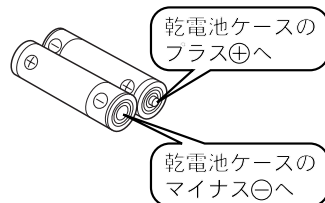
電源を入れたとき、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

- ⊘ ヘッドホンを使うときは、音量を上げすぎない



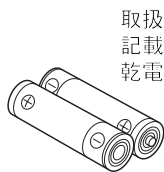
大きな音で聞くと、聴力障害などの原因となることがあります。

- ⚠ 付属のリモコンに電池を挿入する場合、極性表示(プラス⊕とマイナス⊖)通りに入れる



間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

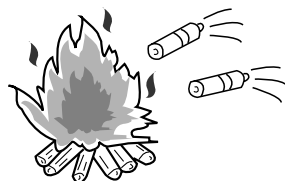
- ⊘ 指定以外の乾電池は使用しない



取扱説明書に記載されている乾電池を使用する

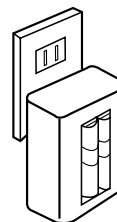
また、種類の違う乾電池、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- ⊘ 乾電池はショート、分解、加熱、火に入れるなどしない



発熱、液もれ、破裂などを起こし、けが、やけどの原因となることがあります。

- ⊘ 乾電池は充電しない



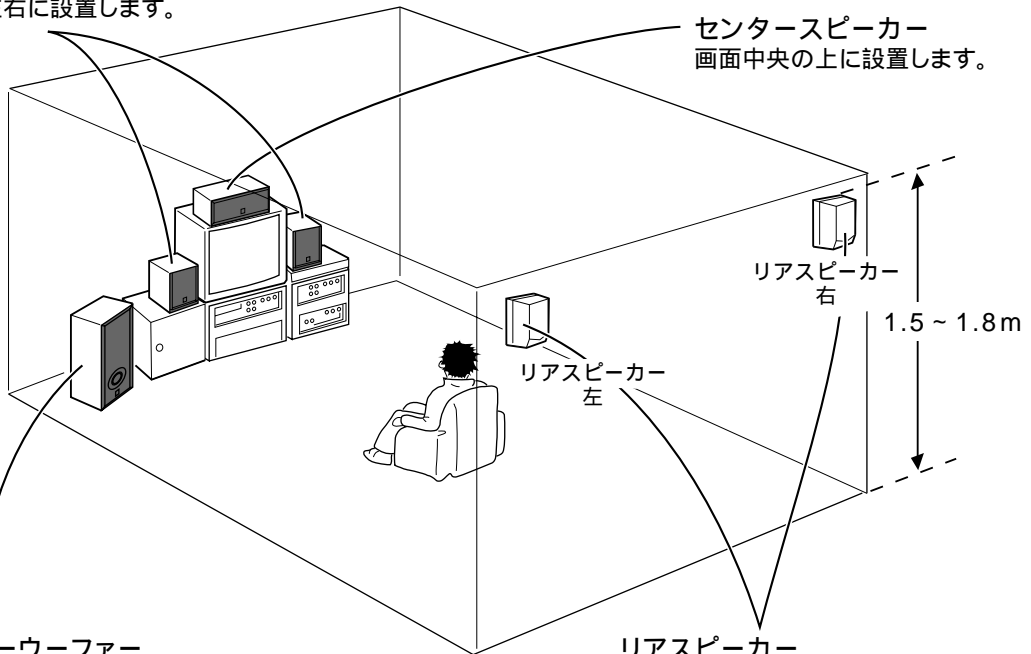
液もれ、破損などを起こし、けが、やけどの原因となることがあります。

- ⚠ 1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。

本機の内部にほこりがたまったまま長い間掃除しないと、火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。

スピーカーの置きかた

メインスピーカー(別売)
画面の左右に設置します。



センタースピーカー
画面中央の上に設置します。

リアスピーカー
右

リアスピーカー
左

1.5 ~ 1.8 m

スーパーウーファー
左または右メインスピーカーに近い外側に
設置します。

リアスピーカー
視聴ポジションより後方(または
側方)に設置します。

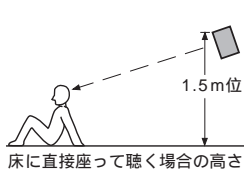
スーパーウーファー

左右どちらかの外側で、壁の反射を防ぐため、少し内側に向けて置きます。低音の聴こえかたは、スーパーウーファーを置く位置と聴く位置の両方に影響を受けますので、設置場所を変えてお試しください。

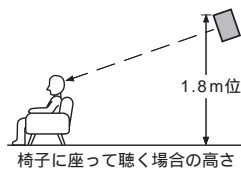
リアスピーカー

お部屋の状況に合わせて床や棚に置いたり、壁に掛けることもできます。取り付けかたについては12ページをご覧ください。

スピーカーの高さは、床に直接座って聴く場合床から1.5m位、椅子に座って聴く場合1.8m位が適当です。



床に直接座って聴く場合の高さ



椅子に座って聴く場合の高さ

センタースピーカー

センタースピーカーはテレビ画面とスピーカーの前縁をそろえ、テレビの上に設置します。取り付けかたについては11ページをご覧ください。テレビの上に設置できないときは、テレビの下のラック内などできるだけテレビ画面の近くに設置してください。

別売のヤマハメインスピーカーNX-VS10M
メインスピーカーはテレビの左右に置きます。
視聴ポジションに座ったとき、顔と同じ高さになるように設置すると効果的です。

！ ご注意 ！

センタースピーカーは防磁タイプですが、テレビの上で使用したときにテレビ画面に色むらが起きる場合は、スピーカーとテレビの位置を調整してください。

消磁機能のあるテレビをご使用の場合は、次のように対処してください。

1. テレビの電源を切る。
2. しばらくたってから、もう一度テレビの電源を入れる。

放熱を良くするために、スーパーウーファーは上面10cm、背面10cm、側面10cm以上の隙間を空けて設置してください。

接続のしかた

正しい接続のために

接続の際は、接続する機器の電源を切ってください。

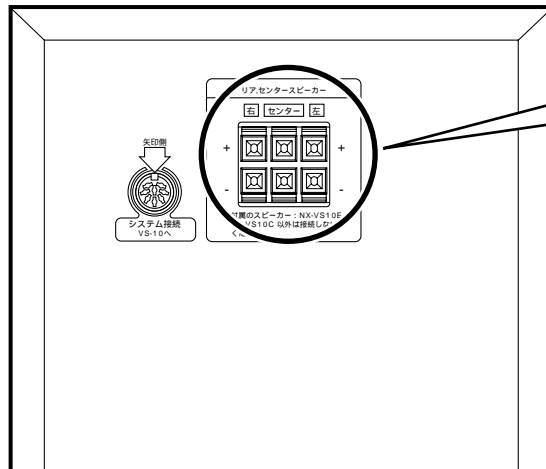
接続する機器によっては接続方法や端子名が異なることがありますので、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

接続が終わったら正しく配線されているか、もう一度お確かめください。

センタースピーカー/リアスピーカーとスーパーウーファーの接続

スーパーウーファーのスピーカー端子には同梱のセンタースピーカー(NX-VS10C)とリアスピーカー(NX-VS10E)以外は接続しないでください。他のスピーカーを接続した場合、故障の原因になります。

スピーカーコード先端の絶縁部分(ビニール)を引き抜き、先をよじっておきます。(よじりながらビニールを引き抜くと芯線がバラバラになりません。)

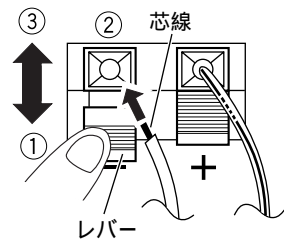


センタースピーカー/リアスピーカーのスピーカー端子にスピーカーコードをつなぐ

- ① レバーを下げる。
- ② 穴にスピーカーコードの芯線を差し込む。
- ③ レバーを戻す。(指を離すとレバーが戻ります。)

ライン入りのコードを右側の+端子(赤)に接続し、もう一方のコードを左側の-端子(黒)に接続します。

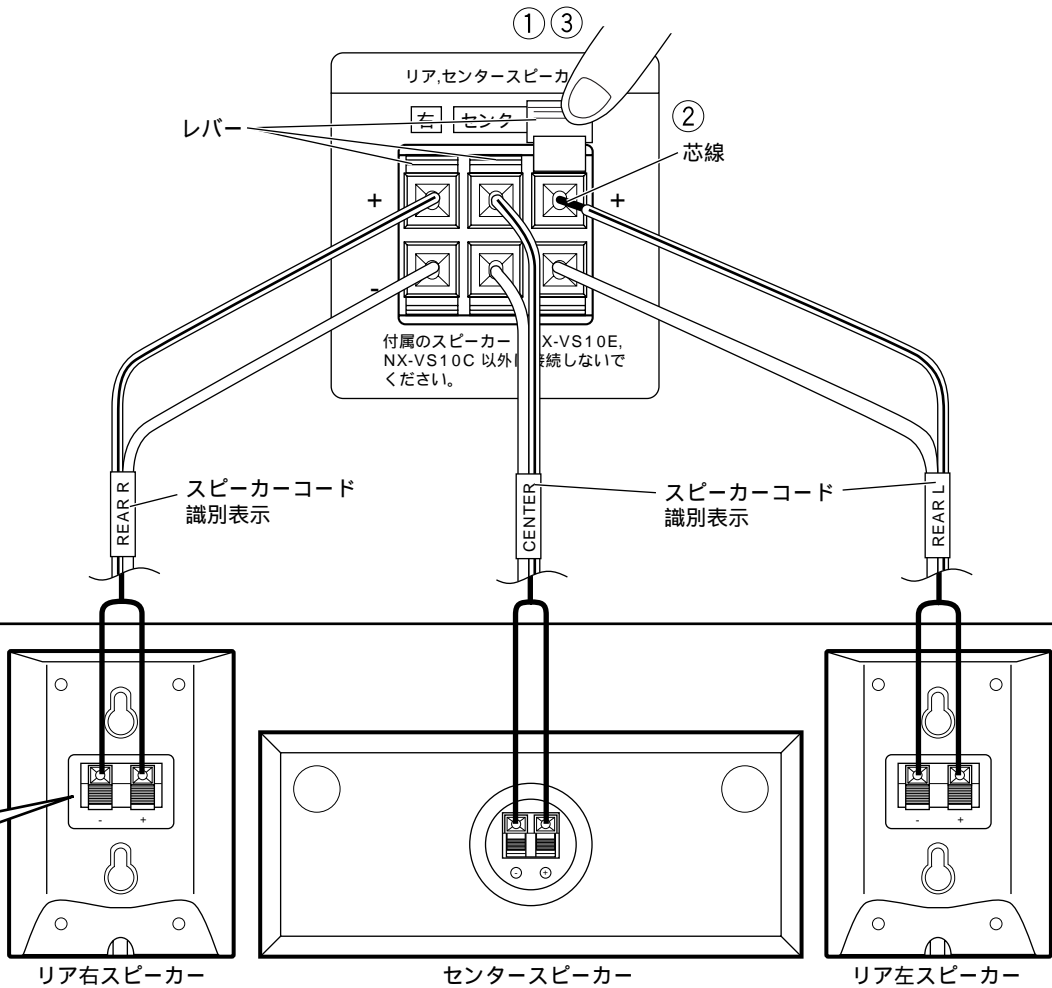
接続が終わったらスピーカーコードを軽く引っ張り、確実に接続されているか確認してください。



スーパーウーファーのスピーカー端子にスピーカーコードをつなぐ

- ① + 端子のレバー(赤)は上にあげ、- 端子のレバー(黒)は下にたおす。
- ② 穴にスピーカーコードの芯線を差し込む。
- ③ レバーを戻す。(カチッと音がするまで戻してください。)

ライン入りのコードを + 端子(赤)に接続し、もう一方のコードを- 端子(黒)に接続します。
接続が終わったらスピーカーコードを軽く引っ張り、確実に接続されているか確認してください。



！ ご注意 ！

スピーカーコードはプラス (+) とマイナス (-) を間違えないように接続してください。
スピーカーコードはプラス (+) とマイナス (-) がショート(接触)しないように、しっかりと差し込んでください。しっかり差し込まれていないと、音が出なかったり、雑音が出たり、スピーカーをいためる原因となります。

スピーカーコードは芯線部分だけを端子の穴に接続します。コードの絶縁部分(ビニール)まで差し込むと音は出ません。スピーカーコードは手や足に引っかからないよう、固定してください。

接続のしかた

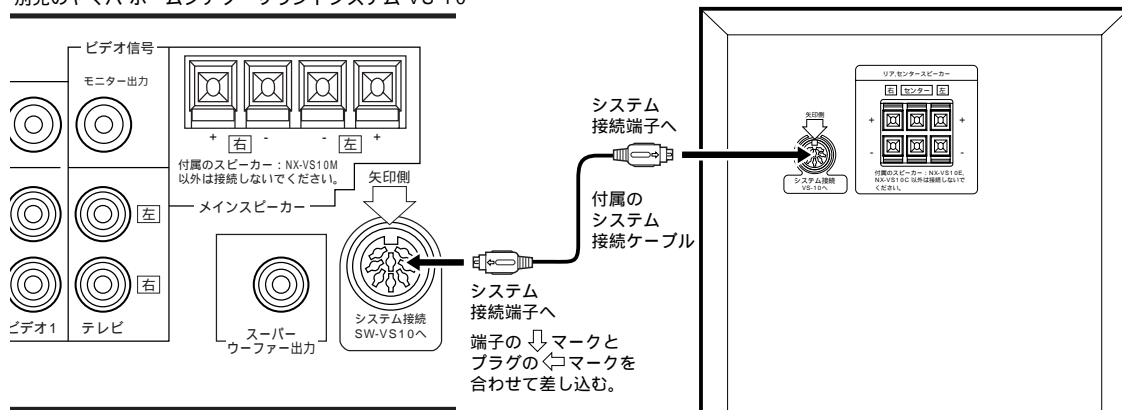
スーパーウーファーとホームシアターサウンドシステムをつなぐ

別売のヤマハホームシアターサウンドシステムVS-10のシステム接続端子とスーパーウーファーのシステム接続端子を、システム接続ケーブルで接続します。

プラグは必ず ◀ マークどうしを合わせて差し込みます。

⇩ マークは端子の上側にあります。

別売のヤマハ ホームシアターサウンドシステム VS-10



メモ

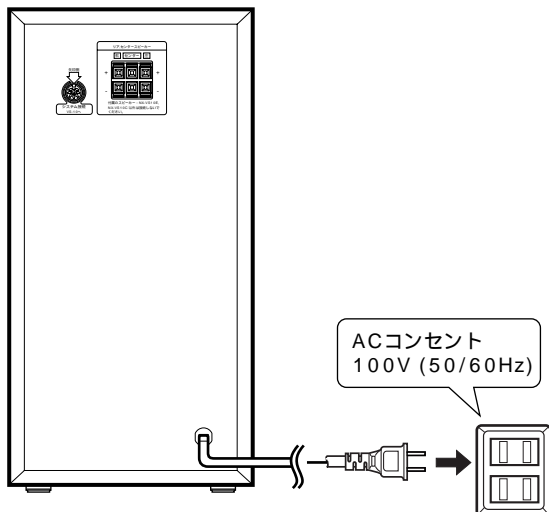
ホームシアターサウンドシステムVS-10の電源を切ると、スーパーウーファーの電源も切れます。

スーパーウーファーの電源コードのプラグを抜くときは、前もってホームシアターサウンドシステムVS-10の電源を切ってください。システム接続ケーブルは傷つけたり、無理に曲げたり、引っ張ったりしないでください。ケーブルが破損して、音が出なくなったり、火災や感電の原因となります。

特に、ラックやキャスターで踏みつけたりしないようご注意ください。

スーパーウーファー/センタースピーカー/リアスピーカー-NX-SW10を使わずに、ホームシアターサウンドシステムだけを使用する場合は、前もってスーパーウーファーの電源コードのプラグとシステム接続ケーブルを抜いてください。

電源コードの接続



接続が終わったら、もう一度確認してください。

最後にスーパーウーファーの電源コードのプラグを、家庭用ACコンセント(100V 50/60Hz)に差し込みます。

センタースピーカーの取り付けかた

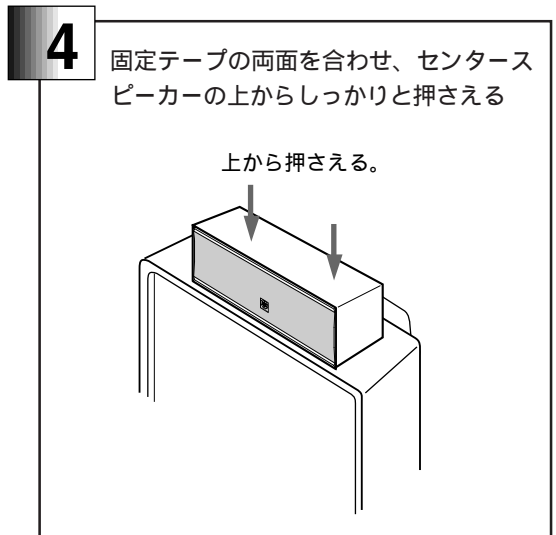
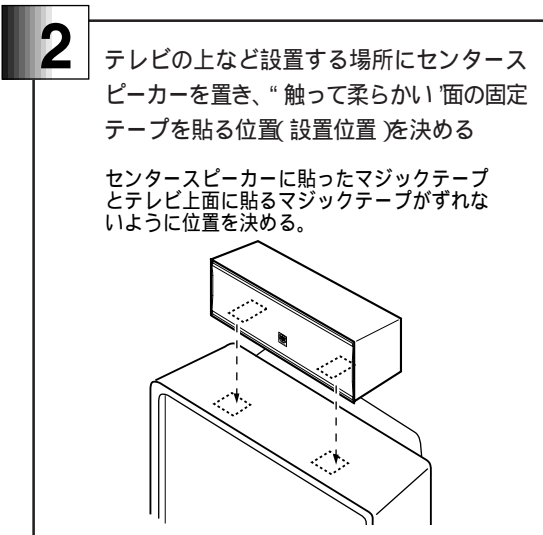
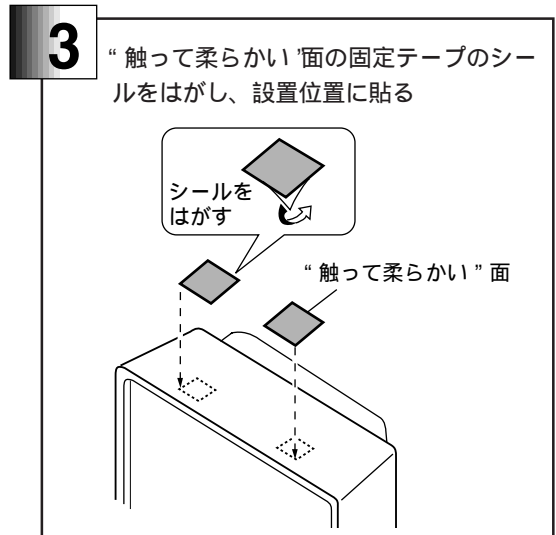
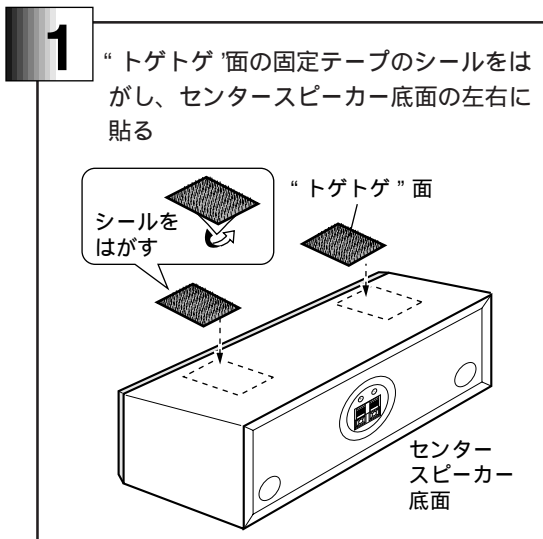
センタースピーカーの落下を防ぐため、テレビなどの上に置くときは、固定テープ（付属）でセンタースピーカーを固定します。

固定テープの使いかた

設置前のご注意

テープをはがした後、接着面には触れないでください。接着強度が弱くなります。

固定テープを貼る部分はきれいに拭いておいてください。ほこりや油、水などが付着していると、テープの接着強度が弱くなり、スピーカーが落下する恐れがあります。



！ご注意！

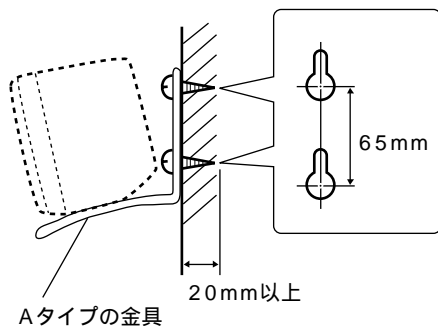
センタースピーカーを一度固定したあとで固定テープをはがすと、テレビなどの設置面の塗装がはがれることがあります。設置位置は十分確認したうえで固定テープを貼ってください。

リアスピーカーの取り付けかた

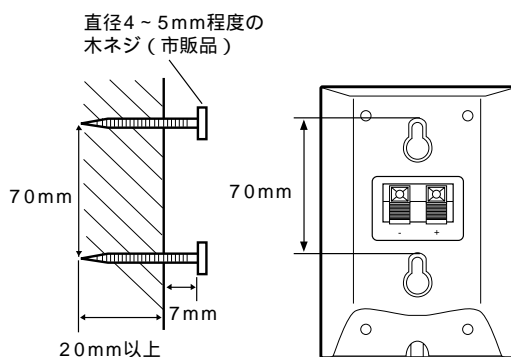
リアスピーカーを壁に掛けて使用する場合は、付属のAタイプ（ウォールブラケット）の金具を使います。

1

リアスピーカーを掛ける場所に2本の木ネジ（市販品：直径4mm程度）を取り付け、木ネジに金具を取り付ける。木ネジが、金具の狭い部分に確実に入っていることを確認してください。



スピーカーを直接壁に取り付けるときはAタイプの金具を使わずに、壁に2本の木ネジを取り付け、スピーカー背面の穴を利用して壁に掛けることもできます。

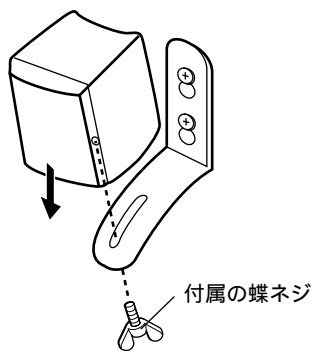


！ ご注意 ！

取り付け後は、スピーカーが確実に固定されているか確認してください。

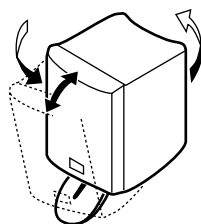
2

金具に、付属の蝶ネジでスピーカーを付ける



3

スピーカーの角度を調節し、蝶ネジをしめる

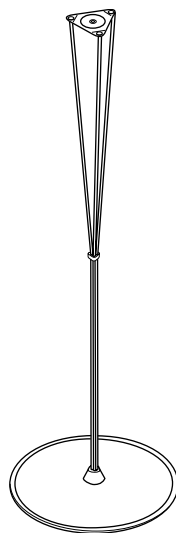


角度を調節してから蝶ネジをしめる。

別売ヤマハスピーカースタンドSPS-AV1

リアスピーカーにSPS-AV1を取り付けると、フロアスタンドスピーカーとして使えます。

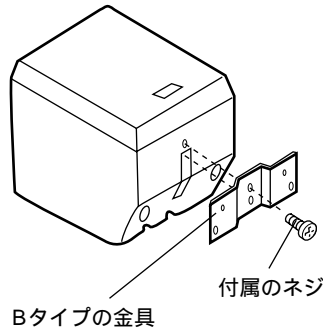
2台1組：税別価格¥11,000



市販のスピーカースタンド(ネジ穴間隔60mm:ヤマハSPM-5など)を使用するときは

1

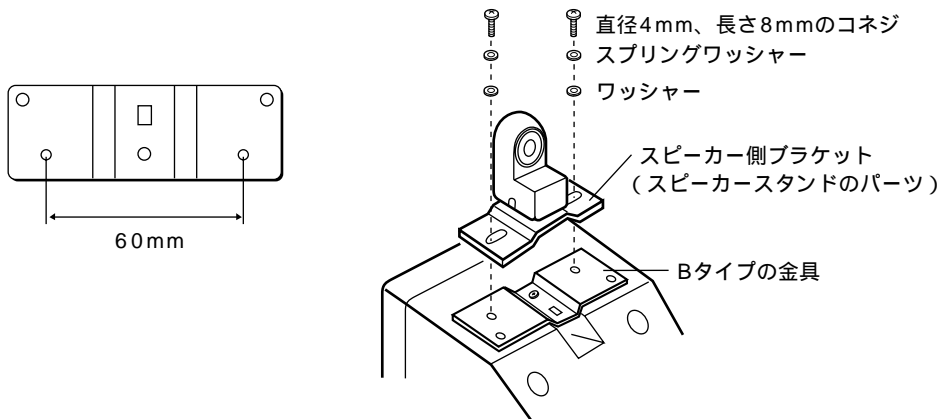
付属のネジで、スピーカー底部にBタイプ(ブラケット)の金具を取り付ける
金具の凸部分がスピーカー底部の溝に入るようにします。



2

金具の穴(60mm)を使い、金具とスピーカースタンドのスピーカー側ブラケットをネジで固定する

直径4mm、長さ8mmのコネジとスプリングワッシャーおよびワッシャーをご用意ください。



！ ご注意 ！

(重要なご注意です。必ずお読みください。)

スピーカーは1台約0.7kgの重量があります。ネジを止める場所は、しっかりとした壁または柱を選んでください。モルタルや化粧ベニヤ板などはがれやすい材質の壁には取り付けしないでください。ネジが抜けて落下などの危険があります。金具を釘や両面テープなどで取り付けしないでください。使用中の振動で釘がゆるんだり、両面テープがはがれ、スピーカーが落下する危険があります。

スピーカークードをスピーカーと金具の間に挟まないように注意してください。スピーカークードはスピーカー背面の溝を通してください。

スピーカークードを足や手に引っかけて本機を落下させることのないように、コードは固定してください。

取り付け後は必ず安全性を確認してください。

取り付け箇所、取り付け方法の不備による事故等の責任は、当社では一切負いかねますのでご了承ください。

故障かなと思ったら

次のような場合は故障でないことがありますので、修理やアフターサービスをお申しつけになる前にあらかじめお調べください。

本機を使用中に、強い外来ノイズ（衝撃、過大な静電気、または落雷による電源電圧の異常など）を受けた場合や誤った操作をした場合などに、操作を受けつけなくなるなどの異常が発生することがあります。

このようなときは、いったん電源プラグを抜き、約30秒後に再びつないで操作をやり直してみてください。

どんな状態ですか？	ここをおたしかめください	参照ページ
まったく音が出ない。	電源コードが接続されていますか？ ホームシアターサウンドシステム側で「消音」にしているませんか？別売ヤマハホームシアターサウンドシステムVS-10の取扱説明書をご覧ください。 ホームシアターサウンドシステムの「入力切換」がアッてますか？別売ヤマハホームシアターサウンドシステムVS-10の取扱説明書をご覧ください。 ホームシアターサウンドシステムにヘッドホンが接続されていませんか？別売ヤマハホームシアターサウンドシステムVS-10の取扱説明書をご覧ください。 システム接続ケーブルが正しく接続されていますか？	10 - - - 10
スーパーウーファーから音が出ない。	ホームシアターサウンドシステム側で「重低音」のレベルを下げすぎていませんか？別売ヤマハホームシアターサウンドシステムVS-10の取扱説明書をご覧ください。	-
センタースピーカーまたはリアスピーカーから音が出ない。	スピーカーコードが正しく接続されていますか？ ホームシアターサウンドシステム側でテストトーンの際にセンターまたはリアレベルを下げすぎていませんか？別売ヤマハホームシアターサウンドシステムVS-10の取扱説明書をご覧ください。 ホームシアターサウンドシステム側で音場プログラムの「バーチャルサラウンド」を選んでいませんか？別売ヤマハホームシアターサウンドシステムVS-10の取扱説明書をご覧ください。 モノラルのソースで音場プログラムの「ドルビープロロジック」を使っていませんか？別売ヤマハホームサウンドシステムVS-10の取扱説明書をご覧ください。	8～9 - - -
センタースピーカーから音が出ない。	2チャンネルのソースで音場プログラムの「ゲーム」または「ホール」を使っていませんか？別売ヤマハホームシアターサウンドシステムVS-10の取扱説明書をご覧ください。	-
“ブーン”という雑音が入る。	電源コードを伝わってくる電波が電源周波数によって変調をうけることがあります。 電源差し込みプラグの左右を逆に差しかえてみてください。	10

！ ご注意 ！

修理・アフターサービスの際は、別売ヤマハホームシアターサウンドシステムVS-10とともにお持ち込みください。

仕様

アンプ部

定格出力

スーパーウーファー	50W (100Hz、10% THD、5)
センター	40W、(1kHz、10% THD、6)
リア	25W×2 (1kHz、10% THD、6)

スーパーウーファー

型名	SW-VS10
型式	アドバンストヤマハ アクティブ サーボテクノロジー方式
スピーカー	16cm コーン、防磁型
最大許容入力	50W
インピーダンス	5
寸法(幅)×(高さ)×(奥行き)	200×395×389mm
重量	10.2kg

センタースピーカー

型名	NX-VS10C
型式	パスレフ型
スピーカー	8cm コーン×2、防磁型
最大許容入力	40W
インピーダンス	6
寸法(幅)×(高さ)×(奥行き)	240×100×145mm
重量	1.7kg

リアスピーカー

型名	NX-VS10E
型式	密閉型
スピーカー	8cm コーン、防磁型
最大許容入力	30W
インピーダンス	6
寸法(幅)×(高さ)×(奥行き)	100×140×112mm
重量	0.68kg

総合

電源/電圧	AC 100V 50/60Hz
消費電力	80W
付属品	スピーカーコード15m×2 スピーカーコード4m×1 システム接続ケーブル3m×1
スピーカー取り付け部品	固定テープ×2 Aタイプ(ウォールブラケット)×2 Bタイプ(ブラケット)×2 ネジ×2 蝶ネジ×2

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

* 「高調波ガイドライン」適合品とは、通産省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用品高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。

* 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

本機は音楽や映画などを再生する目的で設計されており、従って信号発生器やテストディスクの信号などを再生しますと、本機の故障の原因となるばかりではなく、スピーカーをいためる原因となることがあります。デジタルオーディオインターフェース規格は民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなくスピーカーをいためる原因となることがあります。



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。
音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

ヤマハホットラインサービスネットワーク.....

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を未永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

保証期間

お買上げ日より1年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

修理料金の仕組み

- 技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- 部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

品番、製造番号は本機背面に表示してあります。

スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を未永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。



ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

AV国内営業部 TEL (053) 460-3451

AV・IT品質保証部 TEL (053) 460-3405

住所および電話番号は変更になることがあります。

ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問合せは

お客様ご相談センター

TEL (03) 5488-5500

ご相談受付時間 10:00~12:00, 13:00~17:00
(土・日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。)

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問合せは

(ヤマハ電気音響製品サービス拠点)

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512-6108

仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236-0249

首都圏 〒211-0025 川崎市中原区木月1184
TEL (044) 434-3100

浜松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
TEL (053) 465-6711

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652-2230

大阪 〒565-0803 吹田市新戸屋下1-1-6
ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL (06) 6877-5262

広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14
TEL (082) 874-3787

四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7
(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
TEL (087) 822-3045

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472-2134

愛情点検



永年ご使用の本機の点検を!

こんな症状はありませんか?

- 電源コード・プラグが異常に熱い。コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズが変形がある。製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。